

東京女子大学一年 朝沢若枝

私は、何故自分が東工大のサイクリング部なるものに加わっているのか常々疑問を感じていたので、この原稿を載された時点において、ますますその度合いを増したようです。しかしいつもはすみで生きている私のこれがこれ位のことで悩むはずもなく、ダラダラと現在に至っているような女です。実際私は、他の二人がハケ岳から無事帰ってきたら自転車を買おうと思っただけで、二人の元気な姿を見たら急にしゃくにさめて自転車を買う気になつたのですが、おまけに少しぐらい重くてもいいからもう少し安くして欲しいなどというみみっちいお願いをしたのです。それにふさわしく私の自転

車も東工大の方々（部長さんを除く）が工大祭のドサクサにまぎれて、あれこれイデオロギイを固めさせるから全くの独断と偏見によつて作つて下さりました。たいへん失礼なことを申しあげましたが、まあこういうわけが多難なスタートを切つたのです。しかしまずオーに輪行がきないわけだから、わざわざ日曜日に講習会（少レオーバーですが）を申しでもらい、下宿まで道がわからないうので送ってもらつてやっと自転車を乗つて帰つてきたのです。ことわつておきますが、私はこのとき生まれて始めてドロップハンドルなるシロモノに乗つたわけで、体は折にのめりとうだし、足は地面に届かないしよく無事に帰つてきたと自画自賛しました。こういう経過でついに三浦半島に連れて行ってもらう

えたのですが、前日鎌倉のあまり暖かくなり、三時に起きて支度を始めるという始末で、はりきって逆子の駅に着いたのです。しかし元気がったのはここまでで、いざ走り始めると不思議にも坂などというものが現われ最後まで苦しめられたわけです。そして一回ついに坂の途中で止まってしまい後で自己嫌悪に陥ってしまいました。のです。おまけに東工大の方にあんなのは坂とは言えないと心蔵をえぐられるような厳しい言葉をあびせられ、しばらく後遺症が続きました。こんな具合で皆さんに迷惑をかけたのはなしてシヨシユと家に帰ったのです。走りながら景色を見ま余裕がなく、ギアを変えたまま平らな道を走りカラ回りばかりして笑われました。注文した五百円ははながなが来ないしへこれはいく

うな一日でした。さどかし東工大の方々には迷惑であつたらうと本当に申しわけなく思つてます。などと言ひながらも本人は結構おもしろかつたのがなり自己満足しているのですから救ひようがありません。実際走つてみて感じたのは体力のなさとおまけに根性がないこと二点に尽きます。だから春休みには徳島に自転車を持って帰り、少し鍛えようと思つています。おまけに四国一周したいなどと恐ろしい計画をたてようとしていゝのです。最後になりましたが、これから我々三名をよろしくご指導のほどお願い申し上げます。さらに、この原稿を吉祥寺から瑞穂の還七を走つて持つてきたことを報告し筆を置きます。